

2019年度

言語聴覚士専攻科入試

小論文

[60 分]

I 期（一般）

平成31年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題（7月29日）

[小論文]

たとえば、あなたが、これまでまったく接したことのない言語を学ぼうとした時、入手可能な情報源は当該の国語辞書（当該言語を当該言語で定義した辞書）しかないでしょう。するとあなたは永遠に意味のない記号列の定義の間をさまよいつつ、何かの「意味」には永遠にたどり着くことができないことになる（「言語と身体性（岩波書店、2014）」p3～の内容を改変）。

これは、午前中の国語総合のテーマでもあった、「人間はいかにして言語記号を獲得・操作することができるようになるのか」という問題を解明する上で、1つの重要な補助線となるパラドックスである。

人間は、知っていることばがまったくない状態から、言語システムの全体像を与えられることなしに、いかにしてこの巨大にして精緻なシステムを構築していくことができるのか、あなたの考えを1,000字程度で展開しなさい。その際、下のキーワードの中から必要と思われるものがあれば用いて論旨を組み立てても構わない。キーワードを用いた場合には、該当箇所にアンダーラインを付してください。

（ キーワード：帰納的推論、演繹的推論、経験、生得性、身体、ジェスチャー、他者との共感、具体的、抽象的概念、カテゴリー化 ）